

昔は島だった!? ~岡見公園~

陸繫島と「岡見」の名

岡見公園は、昔は市杵島と呼ばれる島でした。それがある時から陸続きになって、今では歩いて行くことがあります。なぜでしょう？ それには矢田川の流れが大きく関係しています。今の矢田川は、矢田の河口に向かって町の西側を流れていますが、自然災害などによる変化で何度も河川の流れが変わり、ある時代には市杵島の手前で海と合流していました。その流れによって運ばれた土砂は河口に堆積し、徐々に陸地を拡げ、最終的には島に到達しました。このようにして陸繫になった島のことを陸繫島といいます。

「岡見」という呼び名が使われ始めたのは、江戸時代の商業船「北前船(廻船)」の時代。高台にある岡見公園は、出航のために海の天気や波風の様子を見る観測所「日和山」でした。「岡から見る」がいつしか「岡見」の呼び名として定着したといわれています。

岡見 昔ばなし

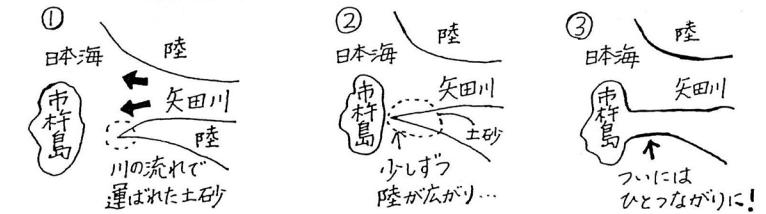
1. お亀が淵のおはなし

岡見公園がまだ市杵島だった頃、切り立った崖のすぐ下の淵には、大きな亀が棲んでいました。亀は甲羅の大きさが畳8畳分もあり、尻尾には8丈(約26メートル)もの鬚が生えていました。春になり一日市の浜で地曳網が始まると、亀は魚を追い込む手伝いをして、村人を助けました。やがて島が陸地とひと続きになり、一日市の浜がなくなると、亀は淵に潜ったまま姿を見せなくなりました。

2. 鎌足神社の伝説

岡見公園の西側の離れ島に、「鎌足神社」という小さな祠が建っています。今から数百年も昔、その頃の漁業はまだ船も小さく、魚場も近くの海に限られていました。ある年からそのあまり大きくない魚場に、イルカの大群が押し寄せるようになって、浜の漁師たちは漁に出られずに困り果てていました。そこで村の長老にイルカ退治の方法を尋ねたところ、蘇我入鹿を敗した中臣鎌足にお願いすれば、動物のイルカも退治してくれるに違いないと言います。漁師たちはさっそく岡見公園に「鎌足神社」を建て、イルカ退散を祈願しました。するとたちまちイルカは逃げ帰り、その年からは豊漁が続きました。今も鎌足神社は漁業の神様として大事にお祭りされています。

島が陸につながるまで



香住天文台

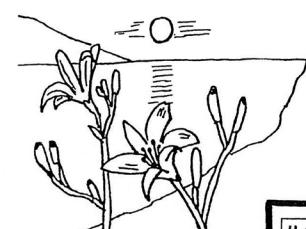
香住唯一の天文台。4月～11月の第2第4土曜日には「星をみる会」が行われている。【お問合せ】教育委員会事務局 香住分室(香住区中央公民館) 0796-36-3764



鎮魂碑(香住沖海戦)

第二次世界大戦終結前日、海軍の防衛艦二隻が米国潜水艦トルスト号の魚雷攻撃を受け、撃沈された。400名余の乗組員のうち、55名の戦死者をだし、その他の乗務員は香住町民の決死の救助作業によって救助された。鎮魂碑は、当時の悲惨な海戦を追悼する意味を込めて、昭和52年に沖を見渡せるこの地に建てられた。

四季を彩る



燈籠と芝生

岡見公園のシンボルの大燈籠。その周りは180度海に面した広い芝生になっていて、景観を楽しみながらのピクニックに最適。夏は松林の木陰で涼もう。

